

第1章 “やまがた「県土未来図」”の策定目的、構成、目標年次等

(策定目的)

“やまがた「県土未来図」”は、これから10年間(2005年度から2015年度)の県づくりの指針となる「やまがた総合発展計画」や、新たな県づくりを進めるための原動力であり県政システムを再構築する「やまがた改革」を建設行政の面から具体化し推進するものとして、県民と行政が共有できる目指すべき次世代の県土のすがたを提示し、「未来に広がる“やまがた”」のすがたを実現していくための取り組みの方向性や実現の方策を示すものである。

なお、「やまがた総合発展計画」は、「やまがた改革」と一体のものであり、「地域力」(自然環境、地域文化など)、「基盤力」(人、インフラなど)、「経済力」(比較優位性のある産業など)の3つの力を基に、政策の柱1から3までが設定され、さらに、これらの活動の舞台となる全国・世界との交流が根付いた圏域づくりと、そのための交通・情報インフラ整備等を政策の柱4としている。その3つの力と政策分野との関連性は以下のようになっている。

「やまがた改革」の3つの力	「やまがた総合発展計画」
「基盤力」	政策の柱1：「人材(県民生活)」
「経済力」	政策の柱2：「産業(産業経済)」
「地域力」	施策の柱3：「環境」
政策の柱4は、それらを支える社会基盤の形成とし基盤力に結びつける。	

また、“やまがた「県土未来図」”は、「時代の変化」を捉えて「目指すべき次世代の県土のすがた」を展望し、そのすがたを実現するため、4つの基本目標を示し「やまがた総合発展計画」、「やまがた改革」と連携を取りながら施策を進めていく。

その“やまがた「県土未来図」”の施策の体系、「やまがた総合発展計画」の政策の体系、「やまがた改革」の3つの力の関係については、4ページに示す。

(構成)

1. 本書は、5ページに示す“やまがた「県土未来図」”概要図に沿って全体を構成する。
2. 第2章では、「時代とともに変化する社会基盤の役割」について記述する。
3. 第3章では、「目指すべき次世代の県土のすがた(2030)」として、「活力があり・美しく・楽しい山形」の考え方を示す。
4. 第4章では、この「目指すべき次世代の県土のすがた」を実現するための

施策を進めていく上で共通した留意点として「県土づくりを進める7つの視点」を示し、さらに基本理念を示す。

基本理念

「つくり続ける」から「使い・活かし続けて」
さらに「楽しめる」社会基盤へ

県土づくりを進める7つの視点

- ・「つくり続ける」から「使い・活かし続けて」
さらに「楽しめる」社会基盤へ
- ・公共投資の「選択と集中」や「効率的効果的」な執行と
「透明性」の確保
- ・「環境保全」や「景観創出」による固有性の発揮
- ・「住民参加・住民協働」によるパートナーシップの形成
- ・「地域の実情に応じた柔軟な取り組み」（やまがたルール）
- ・「ユニバーサルデザインの導入」による思いやりの気持ち
- ・「IT活用」による効率化

5. (1) 第5章第1節では、この県土のすがたを実現するために4つの「基本目標」を掲げ、それらを「施策の柱」として、それぞれの取り組みの方向、実現の方策を示す。

基本目標（目指すべき次世代の県土のための行動目標）

1. 安全・安心を支える県土づくり（安全・安心）
2. 広域交流を進める交通基盤づくり（交流）
3. 地域力を生み出す生活基盤づくり（暮らし）
4. 質の高い持続可能な県土づくり（持続可能な県土）

(2) 第2節では、施策の柱ごとに主要な社会基盤に関し、整備水準の展望として「個別計画または分野ごとの理想の姿」と「2030年頃の達成状況」及び維持管理の展望等を可能な限り数値で示す。

(3) 第3節では、今後の建設行政職員としての意識改革や能力開発について記述する。

(4) 第4節では、時代の変化への対応や課題について記述する。

6. 最後に、第6章で、4つの基本目標を実現させるために、その取り組みの方針となる16項目の「施策群」、その具体の方策となるプロジェクトとして33項目の「施策」を掲げる。

(目標年次等)

次世代を担う人々に夢と希望を与えられる県土を引き継ぐということを重視し、2030年の県土のあるべきすがたを展望し、建設行政の長期構想を取りまとめる。

なお、施策(プロジェクト)単位に、その目的と数項目の目標を設定し、できるだけ数値によって到達度合いを管理できるようにする。

1. 実施プログラムは2008年度の目標値
今後3年間で重点的に取り組む。
2. 計画プログラムは2015年度の目標値
公共施設計画年次に共通性のある10年後の実現の方向性を示す。
3. 未来プログラムは2030年度の目標値
次世代の目指すべき方向性を示す。

また、「施策群」等については、「やまがた総合発展計画」の短期推進プログラムの見直し時等必要に応じフォローアップ(追跡調査)修正等を行っていく。

『やまがた総合発展計画』と『やまがた『県土未来図』』の対応関係

やまがた総合発展計画 ~ 子ども夢未来宣言 ~

やまがた県土未来図 ~ 豊かな県土を次世代に引き継ぐために ~

<基本目標>

やまがた改革の3つの力

基盤力

- ・人 教育の充実・人材育成
- ・生活 医療・安全安心
- ・インフラ 交通・情報 等

経済力

- ・比較優位性のある産業の育成 等

地域力

- ・自然環境
- ・地域文化
- ・地域コミュニティ 等

<政策の体系>

未来を拓く力が発揮され、一人ひとりが輝く地域社会をつくる(政策の柱1)

- 1 未来を拓く多様な力が発揮される地域社会づくり
- 2 ともに助け合い、支え合う地域社会づくり
- 3 新たな不安や危機に強い安全・安心な地域社会づくり

持続的に発展する自立・内発型の産業経済をつくる(政策の柱2)

- 1 地域の資源と知恵を活用した自立・内発型産業の振興
- 2 持続的発展が可能な農林水産業の展開
- 3 県民の主体的な「働き甲斐のある場」づくりの促進

和と環が織りなす共生の地域社会をつくる(政策の柱3)

- 1 自然や環境と親和する山形文化に基づいた環境地域づくり
- 2 山形らしい共生と循環に基づく地域社会の基盤づくり
- 3 山形発の環境協力及び環境文化による貢献・発信

社会や生活の質が高められ、多様な交流が根付く地域社会をつくる(政策の柱4)

- 1 魅力ある生活交流圏の形成
- 2 県を越えた交流連携の促進
- 3 多様な交流・連携を支える交通ネットワークの形成
- 4 創造的な地域社会を支える情報通信ネットワークの形成

<基本目標に向かって進める施策の体系>

1 安全・安心を支える県土づくり

- 1 治水、土砂災害対策の推進
- 2 災害に強い住まいづくりの推進
- 3 危機管理対策の推進

2 広域交流を進める交通基盤づくり

- 1 高速交通ネットワークの形成推進
- 2 世界との交流推進
- 3 便利で快適な公共交通対策の推進
- 4 冬期間の雪害対策の推進

3 地域力を生み出す生活基盤づくり

- 1 都市の拠点性向上の推進
- 2 生活環境づくりの推進
- 3 誰もが暮らしやすい居住環境づくりの推進

4 質の高い持続可能な県土づくり

- 1 県土管理システムの推進
- 2 環境対応施策の推進
- 3 地域をつくる県民参加の推進
- 4 使い続ける維持管理の推進
- 5 やまがたの美しい景観づくりの推進
- 6 山形の歴史などを活かしたまちづくり、地域づくりの支援

目指すべき次世代の県土のすがた(2030)

活力があり・美しく・楽しい山形

- ・安全・安心な県土で産業活動や広域交流を支える高速交通網などの社会基盤が整備された活力のある社会
- ・最上川などに代表される山形固有の自然環境、地域文化、県土景観が保全・継承・創出されている美しい社会
- ・人々との協働による取り組みが活発で次世代につなぐ持続可能で楽しい社会

基本理念

「つくり続ける」から「使い・活かし続けて」さらに「楽しむ」社会基盤へ

実現するための目標

基本目標(目指すべき次世代の県土のための行動目標)

1. 安全・安心を支える県土づくり(安全・安心)
2. 広域交流を進める交通基盤づくり(交流)
3. 地域力を生み出す生活基盤づくり(暮らし)
4. 質の高い持続可能な県土づくり(持続可能な県土)

(注) 実線波線は関連性の強弱

やまがた「県土未来図」(豊かな県土を次世代に引継ぐために)

時代の変化

- 安定・低成長型の社会経済
- 少子高齢化を伴う本格的な人口減少社会
- 地球温暖化など環境に関する問題が世界共通の課題
- 自立が求められ多様化・多元化が進展する時代
- 経済をはじめとした様々な分野でグローバル化
- 地方分権の進展やNPO活動の活発化など自立的な地域社会の形成に向けた動きが活発化
- 知恵と知識が社会経済の発展を主導する時代
- 画一的な成長・拡大を基調とした時代から質的な豊かさや個人の多様性が重視される時代への転換

建設行政の
目指すところ

目指すべき次世代の県土のすがた(2030)

活力があり・美しく・楽しい山形

- 安全・安心な県土で産業活動や広域交流を支える高速交通網などの社会基盤が整備された活力のある社会
- 最上川などに代表される山形固有の自然環境、地域文化、県土景観が保全・継承・創出されている美しい社会
- 人々との協働による取り組みが活発で次世代につなぐ持続可能で楽しい社会

実現するた
めの目標

基本目標(目指すべき次世代の県土のための行動目標)

- 安全・安心を支える県土づくり(安全・安心)
- 広域交流を進める交通基盤づくり(交流)
- 地域力を生み出す生活基盤づくり(暮らし)
- 質の高い持続可能な県土づくり(持続可能な県土)

県土づくりを進める7つの視点

- 「つくり続ける」から「使い・活かし続けて」さらに「楽しめる」社会基盤へ
- 公共投資の「選択と集中」や「効率的効果的」な執行と「透明性」の確保
- 「環境保全」や「景観創出」による固有性の発揮
- 「住民参加・住民協働」によるパートナーシップの形成
- 「地域の実情に応じた柔軟な取り組み」(やまがたルール)
- 「ユニバーサルデザインの導入」による思いやりの気持ち
- 「IT活用」による効率化

施策を考えるうえでの
留意点

基本理念

「つくり続ける」から
「使い・活かし続けて」
さらに「楽しめる」社会基盤へ

施策を考えるうえでの
整備目標

公共投資の展望

- 財政制約と人口減少等
- 整備水準と維持修繕の考え方

基本目標に向かって進める施策の体系

一・安全・安心を支える県土づくり

- 治水、土砂災害対策の推進
 - 地域の防災力の向上等、ソフト面の対応による災害対策
 - 減災効果、防災機能の強化等、ハード面の対応による災害対策
 - 震災等に強い治水・砂防施設等の補強と活用
- 災害に強い住まいづくりの推進
 - 災害に強い建築物の整備・支援、防犯に優れたまちづくり対策
- 危機管理対策の推進
 - 使える防災体制づくり
 - 機能的な緊急輸送道路、孤立させない道づくり
 - 空港・港湾の安全対策、テロの未然防止対策

防災、
減災による
安全な
県土

二・広域交流を進める交通基盤づくり

- 高速交通ネットワークの形成推進
 - 広域経済を支える高速交通ネットワークの整備
 - 地域の活力を担う幹線道路アクセスネットワークの整備
- 世界との交流推進
 - 世界を相手にグローバルな空港港湾整備
- 便利で快適な公共交通対策の推進
 - 利便性の高い鉄道・バス対策
- 冬期間の雪害対策の推進
 - 冬季活動を支える雪に強い道づくり

産業、観光
が活発化す
る県土

三・地域生活を支える生活基盤づくり

- 都市の拠点性向上の推進
 - コンパクトシティづくり(創造的な規模縮小)の推進
 - 地域の拠点を生む中心市街地の活性化
 - 歩いて楽しい道路空間の整備
- 生活環境づくりの推進
 - 快適な生活を支える道路整備
 - 消流融雪設備による快適な道づくり
 - 下水道整備による最上川の水質浄化
- 誰もが暮らしやすい居住環境づくりの推進
 - 住まいのセーフティネットの構築
 - 地域定住・活性化の促進
 - 少子高齢化時代の住まいづくり

暮らしやすく
楽しい県土

四・質の高い持続可能な県土づくり

- 県土管理システムの推進
 - 公共事業評価システムの構築、適正運用
 - コスト構造改革、入札、契約制度の改善・適正運用
 - 山形ローカルルールの取り組み推進
 - 民間活力導入事業の推進
 - IT活用プロジェクトの推進
 - 建設産業の振興
- 環境対応施策の推進
 - 自動車交通の円滑化などによるCO₂削減の取り組み
 - 資源再利用による循環システムの推進
- 地域をつくる県民参加の推進
 - 県民参加の取り組み推進
- 使い続ける維持管理の推進
 - 公共施設最適管理・利用プロジェクトの実践
- やまがたの美しい景観づくりの推進
 - 行政手法を含めた「ふるさとやまがた」の景観づくり
- 山形の歴史などを活かしたまちづくり、地域づくりの支援
 - アルカディア街道復興計画の取り組み

いつまでも
自然豊かで美
しい県土

次世代に向けて関係部局と連携しながらハード・ソフトにも誇りに展開する元気なふるさと「やまがた」づくり